

番号	訂正箇所		原 文	訂 正 文
	ページ	行		
1	36	4	次の公立校受験も頑張るぞ！	次の公立校受験も頑張るぞ！
2	43	脚注	<p>20</p> <p>.....</p> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; display: inline-block;"> ① 国体 每年開催される日本国内最大の総合スポーツ大会。 大の総合スポーツ大会。 </div> <p>43</p> 	<p>20</p> <p>.....</p> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; display: inline-block;"> ① 国体 每年開催される日本国内最大の総合スポーツ大会。二〇二四年（令和六年）に「国民体育大会」から「国民スポーツ大会」に名称が変更された。 </div> <p>43</p> 
3	118	1	ひいがわ 橋井川	ひいがわ 橋井川
4	150	4	〈添付別紙1参照〉	〈添付別紙2参照〉

番号	訂正箇所		原 文	訂 正 文
	ページ	行		
5	150	4	〈添付別紙1参照〉	〈添付別紙2参照〉
6	150	9	〈添付別紙1参照〉	〈添付別紙2参照〉
7	150	10	〈添付別紙1参照〉	〈添付別紙2参照〉
8	150	脚注	〈添付別紙1参照〉	〈添付別紙2参照〉
9	150	脚注	〈添付別紙1参照〉	〈添付別紙2参照〉

番号	訂正箇所		原 文	訂 正 文
	ページ	行		
10	150	脚注	〈添付別紙1参照〉	〈添付別紙2参照〉
11	150	脚注	〈添付別紙1参照〉	〈添付別紙2参照〉
12	151	18	〈添付別紙1参照〉	〈添付別紙2参照〉
13	151	脚注	〈添付別紙1参照〉	〈添付別紙2参照〉
14	151	脚注	〈添付別紙1参照〉	〈添付別紙2参照〉

番号	訂正箇所		原 文	訂 正 文
	ページ	行		
15	196	下段 2	「地球上では、	「地球上では、
16	197	下段 1	「昔から災害などが	「昔から災害などが
17	197	下段 10	「プロジェクトに	「プロジェクトに
18	198	中上	〈添付別紙 3 参照〉	〈添付別紙 3 参照〉

原文

「もしかしてさ、ななえって女の子が好き?」
昔から恋愛のなやみを相談してきた親友から突然聞かれたのがきっかけで、滝沢さんは、自分が女性を好きなことを打ち明けたといいます。

滝沢さんが自らセクシャル・マイノリティであると感じ始めたのは、二十二歳のときでした。テレビドラマを見て、ランスジエンダーの存在を知ったのがきっかけでした。それまでは、

「男性とお付き合いしたこともありましたが、好きにはなれないのかな？」と思い、真剣に調べたときもありました。

そんな中で見つけた、SNSのセクシャル・マイノリティのコミュニティで情報交換をしていく

うちに女性とお付き合いすることになり、相手が女性であれば恋愛ができることに気づきました。そこで、自分自身がセクシャル・マイノリティであることを確信したといいます。滝沢さんは二〇一三年に現役を引退後、バレーボールのコーチとして働いていました。そのころ当時のパートナーとの間で、同居の話が持ち上りました。いっしょに住むのであれば、きちんとけじめをつけたいと思い、滝沢さんは「母親に本当のことを言おう。」と決めました。とはいって、いきなり顔を見て話す勇気は出ませんでした。考えた末、スマートフォンを手に取りメッセージを送りました。

「私は同性愛者です。パートナーの子といっしょに住むことになりました。」返事は、すぐに返っていました。

「そうなんだね。いつしょに住むのであれば、あなたに覚悟が必要だし、相手に対する責任もちゃんとどちらさい。」

滝沢さんは、電話がかかってきて、あれこれ言われたらどうしようかと思つていたので、ほつとしました。言葉は少なかつたけれど、不安に感じることは全くありませんでした。母なりにちゃんと

と、受け止めてくれたのだと感じました。
しかし、兄弟姉妹には、彼女を「いつしょに住んでいる友達」と紹介していました。滝沢さんは

複雑な思いでいっぱいでした。日を追うごとに自分の彼女をパートナーとしてあつかってほしいという気持ちをいだくようになりました。

数年後　滝沢さんは　バーソナルトレーナーに転身　経験を積み　セクシャル・マイノリティであることに向き合う機会がありました。

「トレーナーとしては軌道に乗ってきだし、この仕事以外にも何かできるといいよね。」
「おまかせください。そこで、僕は、『ムニンがいる』ことを何よりも。
——」

と言われたのです。そのとき、濱沢さんは「私はしかできたいことって何が違う」と考へました。ちょうど同じタイミングで、テレビ番組出演のオファーが届きました。取材の流れで、彼女がいふことを云ふと、

0

15

1

③ **パーソナルトレーナー**
運動などの指導を付ききり
で行うトレーナー。

14

151

①セクシャル・マイノリティ
自分の性の認識や、自分が
好きになる相手の性などが、
多數派とは異なる人々のこと。

②トランスジェンダー
身体的な性と心の性が異な
る人々のこと。

11 10 9 8



バレーボール選手としてプレーしていたころの滝沢さん。

訂正文

12

うちに女性とお付き合いすることになり、相手が女性であれば恋愛ができる」とに気づきました。そこで、自分自身がセクシャル・マイノリティであることを確信したといいます。

滝沢さんは二〇一三年に現役を引退後、バレーボールのコーチとして働いていました。そのころ、当時のパートナーとの間で、同居の話が持ち上がりました。いっしょに住むのであれば、きちんとけじめをつけたいと思い、滝沢さんは「母親に本当のことを言おう。」と決めました。

とはいって、いきなり顔を見て話す勇気は出ませんでした。考えた末、スマートフォンを取り、メッセージを送りました。

「実は私は同性愛者です。パートナーの子といっしょに住むことになりました。」

返事は、すぐに返ってきました。

「そうなんだね。いっしょに住むのであれば、あなたに覚悟が必要だし、相手に対する責任もちゃんともちなさい。」

滝沢さんは、電話がかかってきて、あれこれ言われたらどうしようかと思つていたので、ほつとしました。言葉は少なかつたけれど、不安に感じることは全くありませんでした。母なりにちゃんと受け止めてくれたのだと感じました。

しかし、兄弟姉妹には、彼女を「いっしょに住んでいる友達」と紹介していました。滝沢さんは、複雑な思いでいっぱいでした。日を追うごとに自分の彼女をパートナーとしてあつかってほしいといふ気持ちをいだくようになりました。

数年後、滝沢さんは、パーソナルトレーナーに転身。経験を積み、仕事が軌道に乗る中、改めてセクシャル・マイノリティであることに向き合う機会がありました。

当時、所属していたジムの代表に、

「トレーナーとしては軌道に乗つてしまつたし、この仕事以外にも何かできるといいよね。」と言われたのです。そのとき、滝沢さんは、「私にしかできない」とつて何だろう。」と考えました。

ちょうど同じタイミングで、テレビ番組出演のオファーが届きました。取材の流れで、彼女がいふると伝えると、

20

15

10

5

③トランスジェンダー
身体的な性と心の性が異なる人々のこと。

11

10

①パーソナルトレーナー
運動などの指導を付ききりで行うトレーナー。
②セクシャル・マイノリティ
自分の性の認識や、自分が好きになる相手の性などが、多数派とは異なる人々のこと。

9

8

14

13

滝沢ななえさん
滝沢ななえさんは、一九八七年（昭和六十二年）九月二十一日、東京都二鷹市に生まれました。母親のえいきょうで小学校一年生からバレーボールを始めたのは、二十二歳のときでした。テレビドラマを見て、トランスジェンダーの存在を知ったのがきっかけでした。それまでは、

「男性とお付き合いしたこともありましたが、好きにはなれませんでした。私は人のことを好きになれないのかな？」と思い、真剣に調べたときもありました。」と語っています。

そんな中で見つけた、SNSのセクシャル・マイノリティのコミュニティで情報交換をしていく



5

滝沢ななえさんは、一九八七年（昭和六十二年）九月二十一日、東京都二鷹市に生まれました。母親のえいきょうで小学校一年生からバレーボールを始めたのは、二十二歳のときでした。テレビドラマを見て、トランスジェンダーの存在を知ったのがきっかけでした。それまでは、

「もしかしてさ、ななえって女の子が好き？」

昔から恋愛のなやみを相談してきた親友から突然聞かれたのがきっかけで、滝沢さんは、自分が女性を好きなことを打ち明けたといいます。

滝沢さんが自らセクシャル・マイノリティであると感じ始めたのは、二十二歳のときでした。テレビドラマを見て、トランスジェンダーの存在を知ったのがきっかけでした。それまでは、

「男性とお付き合いしたこともありましたが、好きにはなれませんでした。私は人のことを好きになれないのかな？」と思い、真剣に調べたときもありました。」と語っています。

そんな中で見つけた、SNSのセクシャル・マイノリティのコミュニティで情報交換をしていく

原 文	訂 正 文

朗読音声 ワークシート **Web サイト** 資料 VR VR 映像 心情円 映像 他教科リンク

朗読音声 ワークシート 資料 VR VR 映像 心情円 映像 他教科リンク

番号	訂正箇所		原 文	訂 正 文
	ページ	行		
1	41	7	<u>むすこ</u> 息子	<u>むすこ</u> 息子
2	42	11	<u>足元</u>	<u>足もと</u>
3	140	14	<u>あしもと</u> 足下	<u>足もと</u>
4	140	14	<u>足下</u>	<u>足もと</u>
5	153	6	認知度	<u>にんちど</u> 認知度